

明石高専 同窓会通信 第3号

〒674 明石市魚住町西岡679-3
明石工業高等専門学校・同窓会
TEL・FAX (078)946-6186

目 次

副会長挨拶	林 年明	1
学校長挨拶	行田 博	2
〔母校の近況など〕		2
なつかしの恩師より	古川 昌二、藤原 勉	3
改修された一般管理部本館と電気都市システム棟について		4,5
萌友会の紹介	友久 誠司	6
〔事務局からのお知らせ〕		6

副会長挨拶

機械工学科3回生 林 年明

拝啓、同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

同窓会通信第3号の発行に関し、役員一同を代表してご挨拶並びに同窓会活動に対する日ごろのご支援、ご協力のお礼を申し上げます。

先ず、第2号発行後第3号発行まで4年余要したことをお詫び申し上げます。

さて、早いもので1回生の卒業後35年を経過し、私達が学んでいた頃と比較すると、学校も大きく変わっています。皆様方は一度学校を訪問されてはいかがでしょう。クラスの同窓会を学校で行うのも一考かと思います。

夢ではありますが、同窓会会員の皆様方が気兼ねなく訪問し、くつろげる場所として同窓会会館の建設があります。近い将来皆様方の協力を得て正夢になることを願っています。

一方、世の中の状況も大きく変化しています。IT産業を中心とした技術の進歩とグローバル化の拡大が進んでいます。また、バブル崩

壊後は先行き不透明な状況が進み、更に出口の見えない構造不況の真っ只中という状況であります。このような状況の中で、仕事上のことはもちろん個人のことで本音で話し合えるのは同窓生であると思います。

「特に海外で同窓生に会ったときは、格別のものであります。」(筆者体験談)

この様なことから、同窓会と致しましては、会員皆様方のコミュニケーションの場の一つとして、本通信が、第4号・5号・・・と益々、続けて参ります。内容等で何かよいアイデアがあれば事務局の方に連絡をお願い致します。

最後に本通信の発行に際し、ご執筆頂きました行田校長を始め、諸先生・会員の方々に感謝申し上げますと共に、皆様方の益々のご発展を願って、同窓会役員の挨拶とさせていただきます。

敬具

学校長挨拶

学校長 行田 博

同窓会会員の皆様には、物心、さまざまな面で明石高専をご支援いただき、誠にありがとうございます。

昨年4月に着任して以来、早くも1年が経過しております。わずか1年弱の間に、国際的にも、国内的にも、さまざまな大事件が起き、明石高専でもずいぶんいろいろなことがありました。教職員のみならず、学生、同窓会・後援会・地域の皆様などに助けていただいて、ようやくやってまいりました。

私は、着任以前には、高専教育に直接関わったことはありません。しかし、今までの、民間企業での経験、文部行政官としての中学校・高校・大学・国際学术交流等にかかわる経験、特殊法人での国際文化交流の経験、ユネスコ担当外交官としての外交・国際会議等での経験、国立大学事務局長としての大学運営にかかわる経験、国立短期大学副学長としての教務・学生指導・運営にかかわる経験等から得た知見を糧とし、教育熱心な教職員の皆さんの協力を得て、より一層学生たちにとって魅力ある明石高専とするよう努力しております。

いわゆるバブル崩壊後の産業界全体の下り坂傾向の中で、大学卒業者等の就職率も低下の一途をたどっています。他方、明石高専の卒業生、修了生の進学・就職状況は、ほぼ100%を維持しております。これは、ひとえに、同窓会の皆様・先輩の皆様が産業界等において存分にご活躍いただいているお陰であると存じ、心からお礼を申し上げます。

明石高専は、高専第1期校として、新年度には創立40周年を迎えます。40年という区切りは、50年と違って少々難しいところがあります。国立大学の独立法人化問題を横に見ながら、国立高専はどうなるのかなどという点もあり、記念事業について他高専の状況を聞いてみると、簡略な40年史の発行、記念講演会の開催などに絞られるようです。本校でもこれから具体的に検討することとしていますが、そんな感じになるのではないかと考えております。

同窓会会員の皆様には、今後とも引き続き、よろしくご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

母校の近況など

- (1) 退官 平成10年 愛原 淳士郎(機械)、鈴江 泰治(機械)、澤田 孝雄(都市)、武藤 尊彦(建築)、川村 啓喜(一般)、大下 顕弘(一般)、野澤 健(一般)
- 平成11年 佐々木 一郎(機械)、大久保 祥雄(電気)、高端 宏直(都市)、藤澤 博康(一般)、野々瀬 重泰(電気)
- 平成12年 下村 哲(一般)、中谷 実伸(一般)、古田 智基(建築)
- 平成13年 近藤 昌彦(校長)、松井 誠吾(電気情報)
- (2) 新任 平成10年 関森 大介(機械)、花田 治行(機械)、山本 勲(都市)、西田 和美(建築)、古田 智基(建築)、下村 哲(一般)、中谷 実伸(一般)、穂本 浩美(一般)
- 平成11年 石橋 進(機械)、細川 篤(電気)、前原 澄子(一般)
- 平成12年 石黒 富士雄(電気情報)、佐村 敏治(電気情報)、越智 内士(都市)、面田 康裕(一般)、高野 啓児(一般)
- 平成13年 行田 博(校長)、堀 桂太郎(電気情報)、宮本 行庸(電気情報)
- (3) 施設 平成12年 一般管理部本館、電気都市システム棟が改修された。
テクノセンターが完成した。
- (4) その他 平成11年 電気工学科が電気情報工学科に改組された。

なつかしの恩師より

醤油組合に勤めて

名誉教授 古川 昌二

定年後、兵庫県醤油工業協同組合に勤めています。昨春、退職をお願いしましたが、後任の方の指導のため、あとしばらく勤めます。組合の事務所は明石市本町の播淡汽船の乗場の西にあるビルの4階にあります。高専の新入生の淡路合宿の際の集合場所といえ、懐かしき思い出す方もあるでしょう。

組合では(財)日本醤油検査協会の検査員として県下(龍野地区を除く)に約30工場あるJAS認定工場の指導、主として毎日生産される各工場の醤油の品質がJASに適合するかどうか、JAS格付の化学分析をしてきました。

分析の項目は醤油の色、総窒素、エキス、アルコールなどで、うち総窒素含量は醤油中の旨味の成分、アミノ酸含量の目安となるもので、最も重要な項目です。総窒素の分析は醤油中のアミノ酸などを濃硫酸にて分解し構成成分の窒素を硫酸アンモンの液に変え、この液をアルカリ性にするとうアンモニアが生じ、最後は中和滴定によって生じたアンモニア量、従って総窒素量を測定している。中和滴定は高専の1年の化学実験で行った、三角フラスコに食酢を入れ、ビュレットから水酸化ナトリウム溶液を滴々加える。最後の1滴で指示薬の色が赤くなる点が終点だ。私はデモンストレーションで滴々と加えながら、この辺が宝殿だ、もう曾根だと云いながら、最後の1滴で赤色、終点姫路になったと説明しました。思い出された方がいるでしょうか。私の人生第2ラウンド、醤油組合の勤めもほぼ終わりに近づいています。この間、醤油組合員の皆さんに対する技術講演などで大学の同窓の諸先生、高専の倉光先生には大変お世話になりました。また、高専野球部OBの小嶋君、高田君にはいろいろ助けて戴きました。有難く存じています。

定年後の楽しみの一つは同窓会で旧友と会うことです。若い頃大病になり長生は無理と思っていたが古希をはるかに過ぎた。年々動きはおそく心細いこともある。クラス会で会えば誰彼とも似たような悩みを話し合い、元気で長生をしようということではとほとする。これからの私の人生第3ラウンド、少しでもよい何か目標をもって過ごしたい。同窓諸兄のご健闘を切に祈る。

思い出すこと、思うこと

名誉教授 藤原 勉

バブルがはじけてその事後処理にもたついている間に、景気が悪化の一途をたどっています。在校生の就職や既に社会に出ている卒業生のことなど心配な今日この頃です。今日は1月17日。阪神淡路大震災7年目のその日です。私はこの原稿を書いている部屋で地震に遇ったのです。その場所は神戸市が埋立て造成をしたポートアイランド。住んでいるマンションは、25階建鉄骨鉄筋コンクリート造でその天辺25階に住んでいたのですから、その体験たるやまことにシビアーなものでありました。強烈な地鳴りの襲来と衝撃的垂直動、それに引続く数十秒と思われる横揺れは言いつくされた通りです。私はその時、やっぱり来たな、と叫んでおりました。というのは、丁度50年前、中学の地理の先生が授業の中で、瀬戸内海で地震が起きるかもしれない、それも50年位先だろう。と言われていたことです。実はその鮮烈な記憶があったればこそ、わが部屋の壁面全面に造付けの書棚をしっかりと固定し倒れないようにしたのでした。ところが抜かったことに、オープンスタック(開架式)にした為振動によって棚の本は皆床の上に積もってしまいました。ただ本棚が私のベットに倒れ重ならなかった故に命拾いをしたわけです。神戸は地震はない、と言われていましたが、予言なさった先生—その名を上月順治先生と申しあげる—がいらっしゃったのです。

昨年9・11多発テロは、まことに忌まわしい事件です。米国の高層建築の構造設計は地震の無い地域では風荷重が採用されると聞いています。マスコミによれば、航空機の衝突などは考えてもいなかった、ということでした。しかしWTC(世界貿易センター)コンプレックスの構造設計者ロバートソン氏はタワーはジェット機が当たっても倒れないように設計したということです*1。第二次世界大戦末期の昭和18年、日本軍部の超重爆2飛行機運用計画で、ニューヨーク爆撃を計画しています*2。

寺田寅彦は「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。天災も人災もそうだと思います。それにどう備えるか、私達はいろんな角度から対応し被害を最小にしたいとめるようにしなければいけないと思います。

終わりにりましたが、高専も専攻科が整備され、留学生も増え、同窓会も国際化して賑やかになりつつあります。このつながりの環が、工学の進歩だけでなく、平和や協調の環をも広げる原動力になれば、と期待致しております。

*1 野中泰三郎、世界貿易センターの構造とビル群の崩壊、建築雑誌2001年11月号

*2 日本軍用機航空戦史・第五巻、グリーンアロー出版社、409頁

改修された一般管理部本館と電気都市システム棟について

本校は昭和37年に設置され、年次計画によって校舎等の整備が行われてきました。

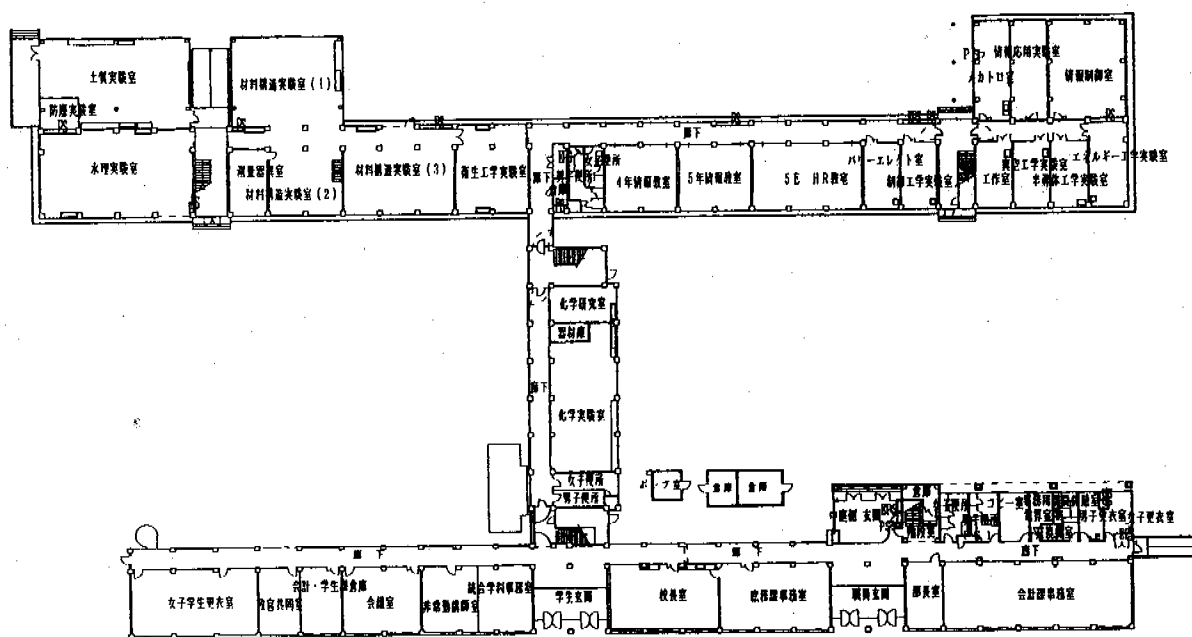
平成10年度には、社会情勢の変化に対応する教育環境整備として、①狭隘教室の改善、②校舎不足の整備等を目的とした教育改善基本計画が立案され、それに沿った一般管理部本館の改修工事が実施されました。

さらに、平成11年度には電気工学科の電気情報工学科への改組に伴う増築、ならびに都市システム工学科の増築が認められました。これにより、耐震補強工事を含めた電気都市システム棟の改修、および物理、化学教室の改修工事が実施され、平成12年3月に竣工されました。以下に、改修後の平面図を掲載していますが、文字が小さくて見辛い点をご容赦下さい。

なお、現在、機械建築棟の改修工事が実施され、3月末には竣工予定となっています。詳細については、次号でお知らせする予定です。

[工事内容]

○一般管理部本館改修他	3400m ²
[内 増築分 (3階建)]	653m ²
○電気都市システム棟改修他	3622m ²
○電気情報工学科増築 (3階建)	600m ²
○都市システム工学科増築 (平屋)	289m ²



校舎改修後全体1階 平面図



萌友会の紹介

土木工学科 4 回生 友久 誠司

「萌友会」は1998年までの土木工学科卒業生で組織していた「明土会」を、都市システム工学科の卒業生を迎えるに当たって改名（名付け親は高端名誉教授）したものです。

現在、萌友会は会員1242名、現旧教職員の特別会員22名で構成され、5回生の村主会長を中心に各回の理事、および内藤局長を中心とした事務局で運営されています。本会の最も大きな特徴は、在学途中で進路変更した仲間や他学科の卒業生の入会を可能としていることです。旧交を暖め、あるいは同じ建設関係に従事している仲間としての情報交換を目的として5名が在籍されています。

萌友会の主な活動は以下のとおりです。

【会報】は2回生の吉永氏を編集長に年一回発行しています。母校・学科の近況や、会員の寄稿である職場シリーズが好評を得ています。また、都市システム工学科の新入生、および卒業生と進路の一覧では、母校と社会の関わりを知ることができ、これを機に先輩と後輩のいろいろな交流があると聞いています。

【総会】は5年に一度行っています。現旧教職員をはじめ萌友会会員が一堂に集い、懐かしい学生時代の話から業界の話まで、何でもありの楽しい時間を過ごすことができます。

【ゴルフ大会】毎年12月にはゴルフ大会を開催しています。土木の分野は他に比べてゴルフが盛んで、各卒業回個々に行っていたものを3回生の中島氏らによって平成9年にまとめたものです。これには萌友会以外の教職員を含め、50～80名が参加しています。

【その他】萌友会は、明石高専都市システム工学科の新卒業生への同窓会の案内をはじめ、中学生対策など、学科の振興に物心両面より協力態勢をとっています。また、萌友会は明石高専同窓会への貢献度も大きいと自負しています。過去の役員会、総会や一般科教官の退官パーティなどへの参加者数は他学科の数字を大きく上回っております。律儀で義理堅く、時間の都合のつきやすいのが土木屋かも知れません。

事務局からのお知らせ

(1) 会費の納入について 会費未納分がある方は、会員名簿に綴じ込んでいる振り込み用紙を利用して、ご納入下さい。

(2) 住所変更等の連絡について 住所などの変更がございましたら、お手数ですが名簿に綴じ込みのハガキあるいはファックスにて下記の同窓会の事務局の方へご連絡下さい。

(3) 第5回同窓会総会について 平成14年11月17日(日)に第5回総会を開催いたします。今回は学校を会場としての開催を予定しており、以下のようなプログラムを計画しています。

1. 学校見学会 13:30
2. 総会 14:00
3. 講演会 15:00
4. 懇親会 16:00 (会費：¥5,000)

詳細が決まりましたら改めてご連絡申し上げますので、会員各位のご参加をお願いいたします。

同窓会事務局の電話、FAXを設置しています。不急の連絡は以下の窓口へお願いします。なお、留守番電話とFAXの処理は1週間毎に行いますので、緊急の連絡は在校の幹事までお願いします。

同窓会事務局

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3

TEL・FAX 078-946-6186